



MUSASHINO Vol.130 *for* TOMORROW

巻頭

メンタルを強化して限界を突破する

生島 淳(スポーツジャーナリスト)

卒業生インタビュー

最高の音楽環境で充実の日々

眞塩 直(テノール/ミラノ・スカラ座合唱団団員)



メンタルを強化して 限界を突破する

生島 淳 (スポーツジャーナリスト)

アメリカの野球 (MLB) やバスケットボール (NBA)、国内のラグビー、駅伝、野球、相撲など、さまざまなジャンルをカバーするスポーツジャーナリスト



生島 淳 Jun Ikushima

1967年宮城県気仙沼市生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後、博報堂に入社。勤務の傍ら、スポーツライターとしての活動を始め、1999年に独立。オリンピックは夏4回、冬3回の現地取材・観戦。夏には野球の仕事が多く、黒田博樹『決めて断つ』、高津臣吾『二軍監督の仕事』等の構成を務める。また、冬は箱根駅伝をメインに取材、『箱根駅伝ナイン・ストーリーズ』などの著書を持つ。2019年は日本でラグビーW杯が開催されるが、4年前に『エディー・ジョーンズとの対話』を執筆したことから、本大会では現在、ジョーンズ氏が指揮を執るイングランドに注目。「イングランドとニュージーランドが対戦したら、名勝負が生まれるでしょうね」

の生島淳さん。執筆だけでなくテレビやラジオの出演、キャスターとして幅広く活躍されています。今回は、スポーツ選手における精神面の重要性、メンタルトレーニングにスポットをあてて、音楽の演奏者にも通じる興味深いお話を披露してくださいました。

自分で自分の限界を 定めてしまう

プロ野球の巨人や、メジャーリーグのボストン・レッドソックスで活躍した上原浩治投手が、44歳にして引退を決めた。

演奏家の方々にとって指は仕事上の重要な財産だと思うが、上原投手は指先の感覚については、メジャーリーグでも五本、いや三本の指に入るほど鋭敏な感覚を持つ投手だった。

彼は私の目の前で、ボールの縫い目にかける中指を数ミリ動かすと、「これだけ動かすと、バッターの手元では、ボールの軌道にこれだけの違いが生まれるんです」と説明してくれたことがある。

数ミリずらしたただけで、18.44m先のホームプレート周辺では、大きな違いになる。それをイメージし、その通り

に投げられるのである。

自らが持つ最高の技術を、最高の舞台で常に発揮できる投手だった。

しかし、プロの世界でも上原投手のようなパフォーマンスを発揮できる選手ばかりとは限らない。練習では質の高い球を投げられても、試合になると精度が落ちてしまうことがある。

純粋に技術が不足していることもあるが、自分で自分の限界を定めてしまっているケースも目立つ。

これをスポーツの世界では、「リミティング・ビリーフ」という。

どうせ、自分が出来るのはここまでだから……と持っている力、ポテンシャルを発揮せずに終わってしまう。

日本ラグビーが起こした ジャイアント・キリング

スポーツの世界を取材していると、限界を突破したケースを目の当たりにする。

ここ数年を振り返ってみると、2015年のラグビー・ワールドカップ (W杯) で、エディー・ジョーンズ氏がヘッドコーチを務めたラグビー日本代表が、強豪国南アフリカを破るなど、3勝をあげたことが思い出される。

ラグビーのワールドカップは1987年に第1回が開催され、2011年に開かれた第7回大会までに日本が勝ったのは、1991年大会にジンバブエ相手に勝利したたった1勝だけだった。

ジョーンズ氏は2012年にヘッドコーチに就任すると、まずはマインドセットの変革に取り組む。

「日本の選手たちは、リミットング・ビリーフの塊でしたよ。体が小さいから試合で負けるのは当たり前。日本が弱い理由をたくさん聞いてきましたが、中には『日本人は農耕民族だから』というものでありました(笑)。どうやったらそういう結論が導けるのか、教えて欲しいものです」

要は代表チームに負け犬根性が染み込んでいたのだ。ジョーンズ氏は、その克服のためにいくつかのステップを用意した。

「年度ごとに強化ポイントを明確にして、ターゲットを定めます。日本代表の場合、私が就任した早々の2012年の6月に強豪国のウェールズを破りましたが、この勝利によって選手たちは『出来るかもしれない』という手ごたえをつかんだはず。つまり計画を立て、練習を実施し、試合で結果を残すことで、選手たちの深層心理に巢食う限界思考を取り払うことが出来たのです」

年度ごとに自信を深めていった日本代表は、W杯本番で優勝経験を持つ南アフリカを下し、世界に衝撃を与えた。

世界の誰もが、戦前は番狂わせが起きるとは考えてもみなかった(私も含めて)。しかし、選手、コーチ、スタッフは勝利を信じていたのである。たった3年でマインドセットに変化が起きていた。

最終的にリミットング・ビリーフを払拭し、チーム全員が信じることが出来るようになったのは、エディーさんがW杯の数か月前に課した常軌を逸した練習メニューがもたらしたも

のだった。4年間、日本代表のフルバックとして活躍した五郎丸歩選手は、W杯数か月前の代表合宿を次のように振り返ってくれたことがある。

「合宿が始まった当初は、朝5時に起きてのウェイトトレーニングに始まり、1日4部練習でした。時間は徹底的に管理され、朝9時に“朝寝”の時間まで決められていましたからね。そんなこと、高校時代さえやったことはありませんでした(笑)。間違いなく、合宿に参加した全員にとって生涯でいちばん苦しい合宿だったはず。でも、僕たちには世界での成功経験がなく、エディーさんを信じるしかなかった。苦しい練習をみんなで耐え抜いたことで、底知れぬ自信が得られたと思います」

ジョーンズ氏は、大会が始まる数か月前に厳しい練習を課すことの意味をこう語ってくれた。

「肉体的、精神的に追い込めば追い込むほど、それによって生まれる“レジリエンス”、反動によって生ずる力が大きくなるのです。選手たちは見事にその期待に応えてくれました」

日本の選手たちは「これだけ激しい練習を耐えたのは、日本だけだ」という自信を持っていた。過酷な練習がリミットング・ビリーフを取り払い、選手たちに大きな自信を植えつけたのである。ジョーンズ氏はいう。

「格上の相手を倒す『ジャイアント・キリング』を現実のものとするためには、あらゆる準備をする必要があります。スポーツの世界では、最後の最後に芽生える『格上の相手に、自分たち



が勝ってもいいのだろうか?』という問いにも打ち勝たなければなりません。勝利を受け入れるメンタリティを育てることが重要なのです」

個人競技における リミットング・ビリーフ

まずは、団体競技であるラグビーの例を取り上げたが、個人競技に目を移してみよう。他者の成功事例がリミットング・ビリーフを外す役割を果たした競技種目がある。

日本の陸上男子100mだ。

2017年9月、桐生祥秀が9秒98をマークし、日本人として初めて100mで9秒台に突入した。

それからである。他の日本人選手たちの記録がグングン伸び始めたのは。

2019年6月7日にはサニブラウンが9秒97をマークして日本記録を更新したが、9秒台、10秒00台の公認記録を持つ選手は桐生、サニブラウンを含めて7人を数える。その顔ぶれは次の通りだ(2019年6月10日時点)。

9秒97	サニブラウン	(2019年6月)
9秒98	桐生祥秀	(2017年9月)
10秒00	山縣亮太	(2018年9月)
10秒04	小池祐貴	(2019年5月)
10秒07	多田修平	(2017年9月)*
10秒08	飯塚翔太	(2017年6月)
10秒08	ケンブリッジ飛鳥	(2017年6月)

*桐生が日本記録をマークしたのと同じレース

上位5番までは、桐生が日本記録をマークして以降に出たタイムであり、それぞれの選手が一気にタイムを伸ばしてきた。

私が思うに、桐生が9秒台に突入していなかったら、各選手のタイムの伸びはもっと緩やかだったかもしれない。おそらく、ライバルの桐生が大記録を出したことで、「アイツが出せたのなら、自分だって」、「アイツよりも俺の方が速い」という意識を持った選手がいたはずだ。ひとりが壁を突破し

たことで、他の選手の限界発想も取り
払われたのである。

リミッティング・ビリーフの打破ど
ころか、この世代のメンバーが組む
400mリレーでは、東京オリンピック
で金メダルの期待さえかかる。これま
で、日本のリレーにおけるお家芸とい
えばバトンパスだったが、これだけ走
力のある選手たちがまとまって出現し
たため、アメリカなどの強豪国に対し
ても、走力で十分に太刀打ちできると
いう発想に変化してきたのである。

スポーツの世界では野球の「松坂世
代」のように、時として優秀な選手が
まとまって出現し、「黄金世代」と呼
ばれることがある。1995年に野茂英
雄がロサンゼルス・ドジャースに移籍
し、彼に続いて優秀な投手が海を渡っ
た。野茂が成功したことでリミッティ
ング・ビリーフが取り払われ、自信を
もってメジャーリーグに挑戦する選手
たちが登場した。

それはひとりの突出した選手のパ
フォーマンスによって、同世代の選手

たちの意識や練習の質に変化が起き、
結果として他の学年や世代よりも傑出
した世代が登場することの証である。

よきライバルに恵まれることは、自
分の能力を伸ばす重要なきっかけにな
り得るのだ。

パフォーマンスを安定させる ためのトレーニング

練習の質の向上やライバルの出現に
よって、リミッティング・ビリーフを
取り払う環境が整ったとしても、最終
的には試合で成功してこそ人間は限界
を突破できる。

つまり、試合当日に最良のパフォー
マンスを発揮できる技術は、また別に
存在するのだ。

スポーツ史を振り返ったときに、い
ち早くメンタルトレーニングの重要性
に気づき、発展させたのはプロテニス
である。テニスは男女ともに世界ツ
アーの仕組みが完成したのが他の競技
よりも早く、安定した成績を残すこと
が収入の増加につながるため、メンタ



ル面での研究が進んだ。

テニスで重要とされるのは、感情
の揺らぎをコントロールすること
である。

特に、チャンスボールが来たのに凡
ミスをして相手にポイントを奪われ
ると、精神的なダメージが大きく、気
持ちの切り替えが必要になる。また、
相手のサービスゲームをブレイクす
るチャンスがあったのに、奪いきれな
かった場合、次の自分のサービスゲ
ームを落とすことがプロの世界でも驚く
ほど多い。

テニスが難しいのは、ポイントを
失ってから立て直す時間が25秒しか

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ 音楽学部新人演奏会 ~平成30年度卒業生による~ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

平成31年4月22日 ヤマハホール



横地ちひろ(マリンバ)



山口雅之(コントラバス)



大竹千寛(ピアノ)



山内菜緒(ソプラノ)



齋藤幹弥(オーボエ)



吉原麻実(ピアノ)

ないことだ。ひとつのポイントが入り、次のサービスまでの時間は25秒と決められており、ここで気持ちを落ち着かせるのは「技術」がなければ難しい。また、ゲームチェンジは90秒、セットチェンジは120秒といずれも十分な時間とは言い難い。前のプレーの残像が消しきれないのだ。

嫌なイメージを払拭するための基本的な技術としては、深呼吸が重視される。ミスを犯し、頭に血が上ってしまったような場合には、あらかじめ試合会場で見つめる場所を決めておき、そこを見ながら深呼吸をして気持ちを整える。

とにかく、ミスを引きずってはいけません。ポイント、そして勝利は逃げてしまうので、いち早く立て直す方法を選手たちはトレーニングに取り入れている。「切り替え力」が勝つ秘訣だ。

本番で持っている実力を 発揮するために

また、2015年のラグビーW杯で注目

された言葉が「ルーティーン」である。

これはプレースキックを担当する五郎丸歩選手が、どんな環境であっても安定したキックをするために、ボールを蹴る前の一連の動作を決めたもので、両手を組み合わせるなど独特のポーズが絵になったために、にわかに注目を集めた。

五郎丸選手の場合も、エディーさんから「W杯ではプレースキックの確率を85パーセントにまで高めて欲しい」というリクエストがあり、環境に左右されずにボールを蹴るための流れを模索していくなかで、彼なりのルーティーンが完成したという。

「海外で試合をしていると、ボールをキックするまでに集中を乱そうとして騒いだり、ゴールポスト裏で手を振ったりする人がいるんです。そこに意識が向いてしまうと、失敗するリスクが高まります。そこで、自分の内面と対話するというか、周囲にはまったく影響されずに集中できる環境を、W杯の時には整えることが出来たと思いま

すね」

アスリート、そして演奏家にとっても、環境に左右されずに実力を発揮するには適切な準備が必要なのだ。

余談だが、私の息子は村治佳織、奏一姉弟を育てた村治昇先生が主宰するギター教室で学んだが、そこで生まれた縁から、10代のプロギタリストの卵たちと話す機会をもらった。そのひとりから、「スポーツでは、試合前にどんなメンタル・トレーニングをするんですか?」と質問されたことがあり、演奏とスポーツの世界には、共通点があるのだと気づかされた。

リミットング・ピリーフを取り扱うには、普段から意識の高い集団のなかで技能を磨いたうえで、本番で力を発揮できるメンタルの技術を身につけることが必要だ。そこにスポーツと音楽の共通項がある。

そこまで到達するには、膨大な時間と情熱が必要なことはいうまでもない。

❖ ❖ ❖ ❖ 大学院修士課程新人演奏会 ～平成30年度修了生による～ ❖ ❖ ❖ ❖

令和元年5月17日 ブラームスホール(江古田キャンパス)



三谷真珠子(ハープ)



大日方里奈(ピアノ)



上田実那(ファゴット)



木原理菜(ソプラノ)



岩武 歩(ピアノ)

真剣な学びの場と リフレッシュするための場 レッスン・練習室 共用スペースほか

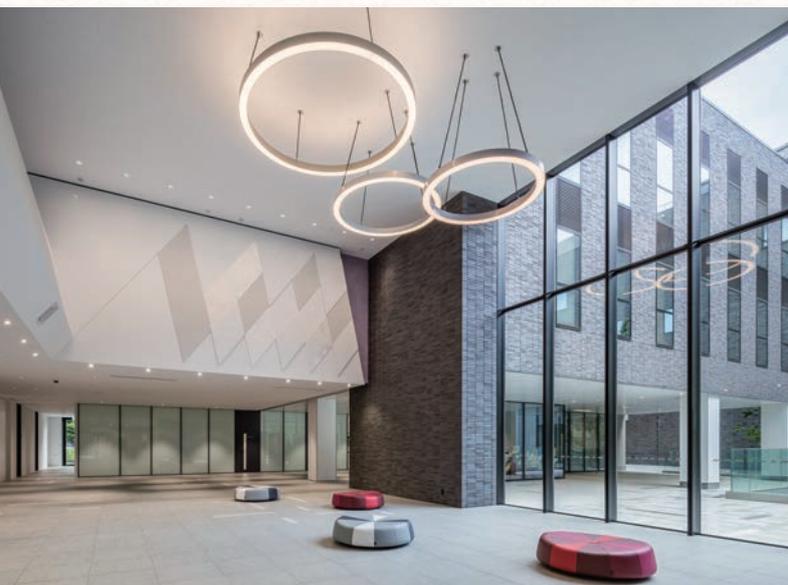
(文：福井直昭 副学長)

大学キャンパスは、学ぶ場であると同時に、毎日の多くの時間を過ごす生活の場でもあります。江古田キャンパスには、学生が心地よく有意義な時間を生み出し、キャンパスライフを彩り豊かにする環境が整っていますが、今回、福井直昭副学長が紹介するのは、こだわりを持って設計された重要な学びの場であるレッスン・練習室と、休憩、食事、友人との交流といったリフレッシュするための共用スペースです。

メインロビー

学園の理念が込められた開放感あふれる空間

アトリウムから左に抜けると、透明なガラスサッシによってリストプラザと一体となった2層吹き抜けの開放感あふれる空間が広がります。周辺には事務部門や掲示コーナーがあり、さまざまな人が行き交う待ち合わせにも最適なスポットです。プラザに面した2基のエレベーターはシースルーになっているため、上階に昇る際にはキャンパスを一望することができ、圧迫感のない開放的な視界が実現しています。逆にプラザ側か



▲メインロビー／学園のシンボルマークやスクールカラーが壁面にデザインされ、建学の精神や生活の規範がトリニティリング(天井照明)で表わされている

らも、エレベーターが昇降する様子を楽しむことができます。

西側の壁面のデザインには、学園のシンボルマークを大胆に取り入れましたが、マークを単なる模様とせず壁の厚みや素材の違いで表現し、さらにスクールカラーの紫をアクセントとして活かすことで、建築と一体となっています。天井の照明は、本学の建学の精神である「和」をモチーフに「輪」の形状とし、3つのP(「Propriety (礼儀)」、「Purity (清潔)」、「Punctuality (時間厳守)」)が生活の規範として定められていることから3つの(トリニティ)リングで構成しています。大きさの異なる各リングの色は、車両用色見本から代表的なメタリックカラーである金・銀に加え、スクールカラーの紫がかかったシルバーを選定して、微妙な違いを出しています。なお、本ロビーやプラームスホールなどのキャンパス施設の視環境、照明効果等が評価され、一般社団法人 日本照明学会の平成29年「照明普及賞」を受賞しました。

ヴェルディロビー

暖かみのある空間が創造された キャンパスのリビング

アトリウムの右に連続するロビーは、「歌劇王」と称された大オペラ作曲家のジュゼッペ・ヴェルディの名が冠されています。周辺には、名称の由来となったヴェルディ像(1976年イタリア共和国より寄贈)のほか、コピーコーナー、掲示板が設置されています。来賓動線にもあたる



フォーマルなメインロビーに対して、主に学生が使うインフォーマルなこのロビーは、木製プレートによってあえて天井高を抑え、暖かみのある空間を創造しています。情報交換、くつろぎ、待ち合



▲(上)ヴェルディ像／1976年にイタリア共和国より寄贈
(下)ヴェルディロビー／木製プレートによってあえて天井高を抑え、暖かみのある空間を創造している

わせなどに利用できる、キャンパスのリビングのようなスペースです。

キャンパスレストラン“Intermezzo” キャンパスの賑わいを感じる 有名レストラン運営のカフェテリア

リストプラザに面して大きく開口部を設け自然光を取り入れた、居心地の良いインティメイト(親密な)空間です。有名レストラン「銀座スエヒロ」が運営を手掛け、カフェテリア形式で多彩なメニューを提供しています。天気の良い日には屋外のプラザに出て、食事をしながら四季の変化やキャンパスの賑わいを感じることができます。「キャンパス・楽器・食材」をコラージュした壁画は、イギリスの著名な作家ケリー・レモン氏によって竣工前に直接描かれたもので、斬新なデザインが食の空間を演出しています。また、広域指向性のあるシーリングスピーカーはフロア全体をカバーしており、パーティーやレセプションの開催にも適しています。



▲ キャンパスレストラン“Intermezzo”
プラザ側からの自然光を取り入れたインティメイト空間



▲ K.レモン氏(英)による「キャンパス・楽器・食材」をコラージュした壁画

名称の“Intermezzo”は、実は次の展望ラウンジ“Bis”と対になっています。主にランチで使用される本レストランはIntermezzo(間奏曲)、夜景を楽しみながらのパーティーに使用されるラウンジはBis(フランス等で用いられる「アンコール」)というわけです。キャンパス竣工記念特別演奏会でも演奏したケマル・ゲキチ氏によって命名されました。

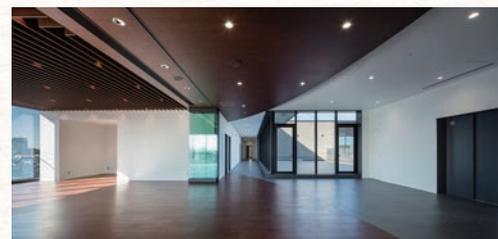
展望ラウンジ“Bis” 大パノラマを楽しめる ラグジュアリーな語らいの空間

校舎最上階のS棟5階には展望ラウンジを設け、東に東京スカイツリー、南に新宿副都心、西に富士山を望む大パノラマ



▲ 展望ラウンジ“Bis”／“Bis”とは「アンコール」のこと。
キャンパスレストラン“Intermezzo”と対になっている

が展開する、ラグジュアリーな語らいの空間を提供しています。開放感のあるガラスパーティションを収納することで、バルトク像(1977年にハンガリーより寄贈)が設置された隣接するエレ



▲ ラウンジ及び外部テラスと一体的に
利用できるエレベーターホール

ベーターホール、及びリストプラザを眼下にキャンパスが一望できる外部テラスと一体的に利用することもできます。また、小型の厨房が併設されているためドリンクや軽食の提供が可能で、シーリングスピーカーや音響機器も設置されており、パーティーでも活用されています。

ヤマハ銀座店武蔵野音大ショップ ゆったりと買い物を楽しめる 爽やかなスペース

ヴェルディロビーに接したガラス張りのヤマハのショップは、白を基調とした明るく爽やかなデザインで、ゆったりと買い物を楽しめるよう約100㎡というスペースを有しています。楽譜や書籍を中心とした音楽ソフト商材に加え、楽器付属関連商品を充実させ、また学生が日常で必要とするような一般雑貨商品も可能な範囲で提供しています。



▲ ヤマハ銀座店武蔵野音大ショップ／白を基調とした爽やかなデザインで、約100㎡というスペースを有する



▲(左)録音スタジオ／遮音性能を極限まで高め、プロユースにも耐えられる静けさを実現
(右)コントロールルーム／業界標準のDAWである最新鋭のPro Toolsシステムを導入

録音スタジオ

充実の設備・仕様でプロユースにも対応

五重奏程度の編成までのレコーディングが可能な広さをもつ録音スタジオは、遮音性能を極限まで高めることで、プロユースにも耐えられる静けさを実現しています。またコントロールルームには、現代のさまざまなレコーディング・作曲には欠かせない業界標準のデジタル・オーディオ・ワークステーション(DAW)である最新鋭のPro Toolsシステムを導入しています。プロのスタジオと同様のハイレベルなシステムを扱うことで感性を高め、さまざまな知識・技術を実践的に学ぶことが可能です。

レッスン・練習室

フラッターエコーを防止し 残響時間も微調整できる本格的なデザイン

キャンパス内の全ての各種レッスン室、練習室(計167室)は、ホール群と同様、フラッターエコー(平行に向かい合った壁と壁、天井と床の間で音が何回も往復し、濁ること)を防止するために、壁や天井の平行面を排した本格的なデザインです。

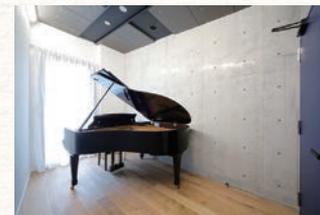
また各部屋の広さや使用楽器により、残響時間を微調整しています。それを可能にしたのが、一見ランダムに見える天井の吸音板(グラスウール)の可変的なレイアウトです。竣工前に現地にて、各楽器専攻の教授陣立会いの下、最適な響きを追求しました。



◀レッスン室(ピアノ)／フラッターエコー防止のために、壁や天井の平行面を排している。また、使用楽器や各部屋の広さを考慮して、天井吸音板の可変的なレイアウトにより、残響時間を調整している



▲レッスン室(打楽器)／吸音カーテンにより、本番で利用するホールに合わせるなど、響きの調整が可能である



▲練習室／ホール、レッスン室と同様、フラッターエコー防止のために壁や天井の平行面を排している



▲音響面に配慮した結果、E棟練習室前の廊下はジグザグ状に現れ、「赤と青のトリック」が創造された

E棟練習室前廊下

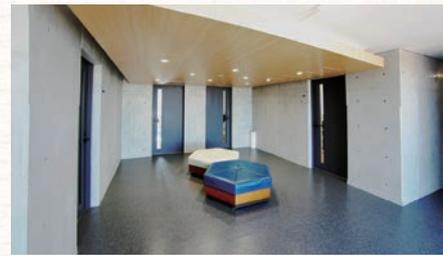
音響面に配慮した結果創造された 「赤と青のトリック」

E棟練習室前の廊下は、フラッターエコー対策で両側の各練習室壁面を斜めにしたことにより、ジグザグ状に現れています。壁についた扉は赤と青の2色に塗り分けられていますが、北側ホール群に向かう(気分を上げる)時には赤い扉だけ、帰り(クールダウン)は青い扉だけが見えるトリックが施されています。あくまで“音響面に配慮した結果”創造されたこのトリックは、テレビ番組でも度々取り上げられています。

ラウンジ・廊下等共用スペース

各ゾーンの機能に応じデザインされた 通過動線と滞留空間

レッスン室は、教員と学生の1対1の真剣な教育、対話の場です。しかし大学という皆が共に研鑽する場では、何気ない仲間との会話や通りすがりの教員のアドバイスも、学修生活におけるかけがえのない要素です。キャンパス内には、対話やリフレッシュのための仕掛けとして、レッスン室に囲まれたラウンジが各所に設けられているほか、画一的な空間となりがちな廊下も、各ゾーンの機能や形



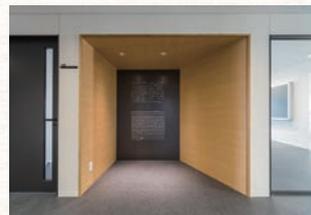
▲E棟のレッスン室に囲まれたラウンジ



▲各棟を結ぶブリッジからは、移動時に視覚の変化を楽しめる

態に応じ、さまざまな印象を持った共用空間としてデザインされています。例えば、リストプラザを取り囲む各棟を結ぶブリッジはすべて全面ガラス張りとなっているため、移動時には開放的な風景を一瞬目にしながら、視覚の変化を楽しめます。

その他、景色を眺め時間の移ろいを感じられる窓、本学所蔵の大作作曲家による自筆譜・手紙がデザインされたグラフィック(次号詳述)なども随所に配され、リフレッシュに一役買っています。



▲本学所蔵の大作作曲家による自筆譜・手紙がデザインされたグラフィック(S棟教室前)

卒業生インタビュー

最高の音楽環境で充実の日々

● 眞塩 直 ●

(テノール／ミラノ・スカラ座合唱団団員)

武蔵野の大学院を修了後にヨーロッパにわたり、イタリアを始め各国の劇場でソリストを務めてきたテノール歌手の眞塩 直さん。偶然得たチャンスをきっかけにミラノ・スカラ座合唱団の入団試験を受け、昨年9月には正団員になりました。入団にいたる経緯やスカラ座での活動、またミラノでの暮らし、武蔵野の思い出などをうかがいました。

合唱未経験から スカラ座入団へ

—— まず、スカラ座合唱団入団に至るまでの経緯をお教えてください。

眞塩 私が正団員になったのは昨年の9月ですが、非正規雇用としては2016年の11月から働いています。2016年の入団の数カ月前、あるご縁でスカラ座の劇場ピアニストをされ

ていたバクトゥリーゼ先生のところにレッスンに行きました。その先生に、合唱のマエストロがテノールを探しているのでオーディションを受けたらどうかと勧められたのです。私はオペラの合唱の経験がなく、乗り気では無かったのですが、先生に背中を押されて受けました。後日、もう一度声を聞かせてほしいとの連絡が来ました。その時、私は別の仕事でブルガリアに滞在しており、また数日後にはオーストリアへの移動も控えていたのですが、再び先生にこんなチャンスは滅多にないと説得されて1日だけミラノに戻ることにしたのです。するとオーディションに通じ、すぐその場で採用されました。後から知ったのですが、この2回目のオーディションは短期契約ではなく、定年退職した団員に代わる長期契約のものでした。先生が言った「滅多にない機会」とはそういう意味だったのです。

—— 入団試験の内容はどのようなものでしたか。

眞塩 非正規採用のオーディションと正規採用のためのコンクールがあります。オーディションは毎年、コンクールは各声種のポストが空かないと行われなため通常は数年に1回です。どちらも声種ごとに日を分けて行われます。オーディションの1次審査は、事前に提出した自薦の3曲の中から任意のアリアを1曲歌います。2次審査は事前に指定されたオペラや宗教曲等合唱曲5曲の自分のパートを独唱。そして新曲視唱です。

コンクールの1次審査は自薦の5曲



▲バクトゥリーゼ先生と先生のお宅で

の中から任意のアリアを1曲、審査員のリクエストがあれば別の曲も歌います。2次審査も合唱曲5曲の自分のパートを独唱。3次審査は新曲視唱とプロヴァ・イン・キウザ(prova in chiusa)、これは、ピアニストと全く知らない歌曲もしくはアリアを15分間で準備して審査員の前で演奏するもの。新曲視唱は20小節程度のものを渡され、30秒ほど見た後に歌います。課題によっては臨時記号が多く、小節毎に調性が変わるようなものもあります。プロヴァ・イン・キウザでは、全く知らないマイナーな歌曲を演奏しました。やや取りにくい音の跳躍が幾つかありましたが、全



眞塩 直 *Nao Mashio*

武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業、同大学院声楽専攻修了。同大学新人演奏会、管弦楽団演奏会ハイドン作曲「天地創造」ウリエル役で出演。イタリアをはじめヨーロッパ各地の劇場やコンサートでソリストを務め、2016年よりミラノ・スカラ座合唱団へ入団。これまでに、山田哲夫、大滝雄志、ウィリアム・マッテウツィ、ルーカ・ゴルラ、ムズィア・バクトゥリーゼの各氏に師事。



▲指揮者ロベルト・アバドとソプラノのバルバラ・フリットリがカッペッリ賞を受賞した際、受賞セレモニーで歌う眞塩さん



▲ロッシーニ「チェネレントラ」の公演時。同僚たちとマエストロを囲んで



▲ヨハン・シュトラウス2世「こうもり」に出演(バーリ歌劇場)

体的なメロディは美しく歌詞もイタリア語でしたので制限時間内に準備できました。

超一流の音楽にふれ己を磨く

——スカラ座合唱団について教えてください。

真塩 正団員は100人程度。ヴェルディなどの人数が必要なオペラはほぼメンバー全員で、そうでないオペラでは演目ごとにメンバーを交代しながら演奏します。アイダなどの大掛かりなオペラを演奏する際には、正団員にアジュントと呼ばれる短期契約の団員を加えて行います。国籍は8割程がイタリア人、残りはロシアや韓国、南アメリカなどが多く、日本人は私と他にソプラノが1人います。入団試験を受けに来るのは他の劇場の合唱団で働いている人が多く、中にはソリスト経験者もいます。イタリアの劇場は財政面で問題を抱えているところが多く、その点でスカラ座は安定しているためイタリア中から受けに来ます。

大半の団員は音楽院で声楽を専攻していた人ですが、中にはピアニス

ト、オルガニスト、ヴァイオリニスト、作曲者なども合唱団員として在籍しています。楽器経験者ですので新しい楽譜を見てすぐ完璧に歌えるのももちろん、皆さん声が良いのに驚かされます。スカラ座に初めて出勤し、音楽稽古の部屋でドン・カルロの大合唱を聴いた時は、それまで味わったことのない音の迫力に圧倒されました。pで美しい調和を表現する時であれば、皆がソリストのように歌い物凄い迫力で歌う時もある。今まで知らなかった合唱の世界にふれ、すぐ虜になりました。

——入団後、どのような活動をされていますか？ また活動されてのご感想は？

真塩 基本的に週5、6日、公演や練習が入っています。1日の労働時間は3～8時間程度で、オペラやコンサートごとに違います。合唱団員でもマエストロの許可が下りれば、籍を置いたまま休職という形でソロ活動ができます。私も正団員になる前に一度だけひと月ほどお休みをいただき、南イタリアのバーリ歌劇場でソリストとして仕事をしました。昨年9月に正団員になってから、試用期間の半年間は休職できませんでしたが、今後はできる限り外での仕事、ソリストとしての活動を増やしていくつもりです。やはりソリストとして歌うのは、何事にも代えられない喜びがあります。

稽古中や本番で、ソリストたちの演奏を聴くのは本当に勉強になります。一流の音楽家の演奏を観客席で聴くのと、練習の段階から一緒に仕事をし、作り上げてきたものを舞台

で聴くのではかなり違います。スカラ座で主役を演じる人は、一流の中でもさらに頭一つ抜けています。彼らの演奏を聴いて良い点はすぐ自分に取り込み、或いは参考にして練習することで演奏のレベルアップにつなげています。オーケストラやバレエ公演、他の練習や本番なども聴くことができますし、ただの音楽好きとしてもとても幸せな環境にいます。

音楽の流れ、まとまりを重視

——プロの演奏団体に入団するのに必要なこと、また求められるスキルは？

真塩 当然ですが、合唱だろうとオーケストラだろうと、まず自分自身のソリストとしての力をつけること。集団で演奏する際の調和等は、やっていくうちに自然と身に着くと思います。求められるスキルとしては、やはり語学力でしょう。言葉が話せて良い演奏をすれば、何処の国でも通用すると思います。

——真塩さんが演奏する際に心がけている点は？

真塩 ソロでも合唱でも音楽の流れ、全体のまとまりを破綻させないこと。声楽家である以上、正しい発声で良い声を出し、作曲家の指示通りに強弱をつけた確かなフレージングで歌うのは当たり前。重要なのはその後です。1曲のオペラアリアの中にも流れがあり、ただ盛り上がるところに意識を集中させればいいわけではありませんし、オペラアリアもオペラ全体から見れば一部分にしかすぎません。短い曲や長いオペラでも、始まりから終わりまでのまとまり、そし



▲スカラ座の前にて
公演を観にきたマッテウツィ先生と

て途切れることのない流れを作れるよう意識しています。バクトゥリゼ先生が良く言うことの一つに、一流のプロとそうでない人の差は、小さいことにいかに気をつけられるか、というのがあります。これらを常に頭に置き、過去の自分より良い演奏ができるよう心がけています。

成すべきことを成し時を待つ

——ミラノでの生活はいかがですか。

眞塩 仕事以外でミラノから離れることはあまりないのですが、休日が続いた時にはフランスやスペインへ旅行に行ったりします。子供の頃からモータースポーツが好きなので、たまに日曜日が休みで天気がいいと、近場のサーキットへレースを見に行きます。F1のイタリアグランプリはこちらに来てから毎年欠かさず行っていますし、ムジェッロのモトGPも見に行きました。車で30分もいけばモンツァサーキットがあり、これだけでも私にとってミラノはパラダイスです(笑)。よく行くお肉屋さんのご主人がバイクをサーキットで走らせる方で、「一緒に行かないか」と



▲昨年、モンツァサーキットでイタリアグランプリ(自動車レース)を観戦

誘ってくれます。近いうちに私もサーキットデビューするかもしれません。車で1時間程度のところにスキー場もありますし、こんなに大都市でもすぐ近くに大自然があるというのは魅力です。そして何より良い点は、スーパーで美味しい生ハムとチーズ、ワインが安く手に入ること！

——武蔵野時代を振り返って印象深いことは？

眞塩 学生時代に大滝雄志先生と一緒に築いた発声の基礎が、今とても役立っています。イタリアに来てから様々な先生と勉強する機会がありましたが、一つの確固たる礎がなければぶれてダメになっていたかもし

れません。そして、良く思い出すが弘子の校舎。当時1、2年生は入間キャンパスに通っていました。早く3年生になって江古田キャンパスに行きたいと思ったものでしたが、今になって思い出されるのは自然に囲まれた入間キャンパスです。普通高校に通っていた私にはオーディオルームや楽器博物館等が新鮮で、空いている時間はよく通っていましたね。図書館でオペラの楽譜を借り、そのまま上の階に行きオペラのDVDを見たものです。

——武蔵野の後輩たちへのメッセージをお願いします。

眞塩 とにかく自分のやりたいことをやってください。周りの目を気にしたり、何かそれらしい理由をつけて諦めないこと。正しい方向に努力をしていれば、何かしら道は開けていきます。気の乗らないことでも、誘われて予定が空いていれば「ノー」と言わずにやってみてください。意外な発見があるかもしれません。

音楽の万華鏡 46

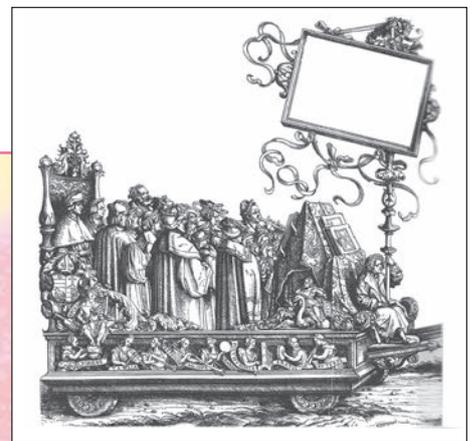
マクシミリアン1世の『凱旋行列』の宮廷音楽家

日本の大きなお祭りでも人目を引く大きな山車は、ヨーロッパでも壁画、水彩画、木版画に描かれており、中でも音楽の庇護者であったハプスブルク家の皇帝マクシミリアン1世(1459-1519)の『凱旋行列』は好例である。これは皇帝の権威や栄光を表そうとした全137点の木版画から成り、全長54メートルに及ぶ。

マクシミリアンはブルゴーニュ公国の後継者マリーとの結婚でその領地を獲得、宮廷楽団も引き継ぐ。さらに叔父からティロルを継承してインスブルックの宮廷を引き継ぎ、宮廷作曲家にイザーク、オルガニストにホーフハイマーを雇う。さらに父の死後はウィーンに宮廷楽団を招集、こ

こではイザークの弟子ゼンフルが活躍した。マクシミリアンは結婚政策によって領土を拡大し、神聖ローマ帝国皇帝として地歩を固めていく。そして、自身の輝かしい栄光を版画によって人々の記憶に留めようと考え、先ず1512年、皇帝自身の構想で水彩画の連作『凱旋行列』を制作させた。そして1516年、同一の構想による木版画の制作がアウクスブルクのブルクマイアー(父)によって開始され、後にアルトルファーやデューラーも加わった。1519年1月の皇帝の死に伴い制作は中断されたが、すでに手掛けられていた137点は1526年に出版された。

『凱旋行列』では多くの者が乗り込んだ山車は馬ばかりではなく異国風の動物によっても引かれるが、人物の着衣や運ばれる武器、旗印、楽器は細心の注意をもって表現されており、人物像の多くは肖像画と言える。華やかな宮廷楽団は高らかな先触れに続いて登場し、かなり多くのスペースが取られている。ミンストレルの



▲ハンス・ブルクマイアーの木版画『マクシミリアン1世の凱旋行列』より

笛吹きと鼓手、リュート奏者とトロンボーン奏者が率いる楽器奏者たち、オルガン奏者ホーフハイマー、そして室内楽団の後にこの宮廷楽団の図が続く。ここでは、ウィーン宮廷のスラトコニアが指揮者として、ゼンフルと共に最後列の目立つ位置を占めている。そして15名の歌手たちが皇帝の好みであったコルネットとトロンボーンの伴奏で歌っている。

寺本まり子(本学音楽学特任教授)

グジェゴシュ・ニェムチュク ピアノ・リサイタル

去る4月26日、本学プラームスホールにおいて、グジェゴシュ・ニェムチュク ピアノ・リサイタルが開催されました。世界各国でソロ活動をされているニェムチュク氏は、母国ポーランド音楽界の次世代を担うピアニストとして注目されている新鋭。この日のプログラムはオール・ショパ

ン。「ショパンの最も優れた解釈のピアニスト」にアルゲリッチ、ポリーニ両氏と並んで選ばれている氏ならではの、知性に裏打ちされた美しく、同時に情熱的な演奏が展開されました。

マズルカが特集された前半は、ショパンにとって日記のようなものであったというプレトークの通り、



リズム感やニュアンスが自在に表現されました。後半は幻想ポロネーズが豊かなイマジネーションをもって演奏された後、子守歌を挟み、ラストは大曲のソナタ第3番。壮麗に締めくくられると、満員の会場は万雷の拍手に包まれました。

平成から令和へ、改元の春の学園行事

❖ 大学入学式&新入生歓迎会

平成としては最後となる武蔵野音楽大学の入学式が、去る4月1日、本学ベートーヴェンホールにおいて挙行されました①。この入学式を皮切りに、平成から令和へとつながる武蔵野の2019年度の学事がスタートしました。

入学式以降、連日つづいた始業に向けてのガイダンス。その最終日の4月6日、ベートーヴェンホールを舞台に新入生歓迎会が行われました。本歓迎会は、新入生がスムーズに学生生活を始められるよう、学友会が主催・企画して実施される恒例のイベントです。今年は、ファンファーレ、歓迎の挨拶で幕があき、歓迎演奏では卒業生がソプラノ独唱とピアノ独奏

を披露。音楽大学ならではの華やかな雰囲気にもまれたところで、学友会執行部紹介、そして趣向を凝らしたクラブ紹介と続き、当初は少し緊張気味だった新入生も徐々に和らいだ表情となり、先輩のパフォーマンスに笑顔を見せていました。歓迎会の終了後には、キャンパスのあちこちで新入生に向けての文化系クラブによる「公開クラブ活動」も実施されました。入学式、新入生歓迎会を経て、新入生は4年間の大学生活の第一歩を踏み出しました。

❖ 入学式・対面式・修学旅行—— 附属高校の春

4月4日、附属高校の入学式が、桜が咲き誇るなか入間キャンパス内のバツハザールで行われました。翌日には、始業式に続いて緊張した面持ちの新入生と新2・3年生が顔合わせをする対面式、新2・3年生が演奏を披露する新入生歓迎演奏会が実施されました②。新年度の順調なスタートからほどなくして、自然から思いがけないプレゼン



トがとどきました。なんと4月中旬、雪が舞い降り、桜との見事なコラボレーションを見せてくれたのです。

5月上旬にはバツハザールにて校内コンサートが、また下旬には2年生の修学旅行が実施されました。ヤマハの楽器工場(ピアノ・管楽器)③と浜松市楽器博物館の見学から始まった旅行は、音楽関係の第一線で活躍中の方々と直接ふれあえるなど、本





4

校ならではの中身の濃い内容となりました。神戸では北野異人館街、人と未来防災センター、六甲オルゴールミュージアム、海遊館などを観光。そしてランチは、豪華にランチクルーズ。京都では文化企画室にて日

舞や三味線、着付けを体験。さらに、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンにも訪れ、楽しい時間を過ごしました④。一方、1・3年生は名栗川上流のせせらぎキャンプ場にて校外学習(飯盒炊爨)を実施。慣れない火おこしに苦勞しつつも美味しい料理を完成させた生徒たちの満面の笑顔が印象的でした。

✿園児たちの笑顔がはじけた 春の遠足——附属幼稚園

3つの附属幼稚園では、恒例行事の春の遠足が行われました。第一幼稚園は埼玉の子ども自然公園に出掛け、キリンやコアラの見学、ヤギやブ



5



6

タへの餌やり体験、うさぎやモルモットとのふれあいなどを楽しみました⑤。第二幼稚園の園児たちは、としまえん、光が丘公園、森林公園に出かけ、それぞれ、たくさんの乗り物にのったり、広い芝生広場で走り回って爽やかな春の日を満喫しました⑥。武蔵野

幼稚園は、稲荷山公園へ。みずみずしい新緑のなか、いろいろなゲームをしたり、楽しく体を使って遊んだり、園児たちの可愛い笑顔がたくさん見られました⑦。



7



▲入間キャンパスの満開の桜

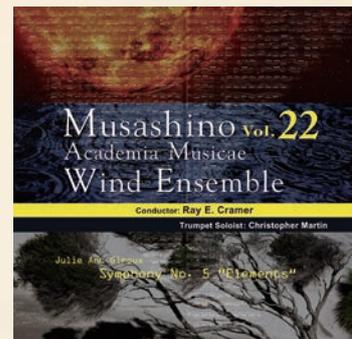
武蔵野音楽大学 同窓会全国総会のお知らせ

来る8月7日(水)、母校江古田キャンパスにて令和元年度同窓会全国総会が開催されます。総会に続き、同窓生のための演奏会が行われ、その後会場を移し「HOTEL 椿山荘 TOKYO」にて懇親会が開催されます。皆様のご出席をお待ちしております。

MUSASHINO 掲示板

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル CD最新盤の発売

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルの通算22枚目となるアルバムが、ブレーン株式会社から発売されました。今回のCDは、世界の吹奏楽を知り尽くした吹奏楽界の重鎮レイ・E・クレーマー教授の指揮による昨年度定期演奏会からセレクトされており、ニューヨーク・フィルハーモニック首席トランペット奏者のクリストファー・マーティン氏と本学ウィンドアンサンブルのために書き下ろした、ジルー「〈タブー〉—独奏トランペットとウィンドアンサンブルのための—」、ヴァルチック「プロトン」の世界初演2曲、ジルー「交響曲 第5番〈エレメンツ〉」、マスランカ「トラベラー」、オクィン「フラッシュバック」の日本初演3曲を含み、進化を続ける吹奏楽の今をお聴きいただけます。(指揮=レイ・E・クレーマー) お求めはお近くの販売店で、本学演奏部窓口でも販売しています(税込2,484円)。





武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成31年2月1日から3月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】北原吟子様 同窓会長野県支部北信地区様

【役員・教職員・一般・他】清水直美様 田内千代様 塚越淑子様 春原恵子様

(他に匿名を希望される方3名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

- 石川県文化奨励賞受賞 石川公美(平成13年大学声楽専攻卒業、本大学院修了) (順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)
- 第31回ハイメスコンクール<声楽部門> 第1位入賞 月下愛実(平成31年本大学院声楽専攻修了)
- 日本打楽器協会主催 第35回打楽器新人演奏会 最優秀賞受賞
横地ちひろ(平成31年大学マリンバ専攻卒業、本大学院1年)
- 第21回九州音楽コンクール
グランプリ・出田賞、文部科学大臣賞受賞、ピアノ部門 一般クラス 最優秀賞受賞
野上 剛(平成24年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了)
管・打楽器部門 大学生クラス 最優秀賞受賞 松倉千恵(大学1年フルート専攻)
- 第36回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール ピアノ部門 大学生の部 第2位入賞(最高位) 吉原麻実(大学4年ピアノ専攻)、
- 第11回さくら音楽コンクール 声楽部門 大学A2 第3位入賞(1、2位なし) 山崎友理(平成26年大学声楽専攻卒業、本大学院1年、附属高校卒業)、●第4回水と緑のまち 江戸川 新進音楽家コンクール ピアノ部門 一般の部 第3位入賞 野上 剛(平成24年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

オープンキャンパス・学校説明会&体験レッスン

《オープンキャンパス》《学校説明会&体験レッスン》を下記の日程で開催します。ぜひご参加ください。

◎オープンキャンパス [会場：武蔵野音楽大学 江古田キャンパス]

開催日	主な実施内容
7月14日◎★	学科紹介、体験レッスン、レッスン公開、体験授業
8月25日◎★	学科紹介、体験レッスン、学生によるコンサート
10月14日(月)初	学科紹介、授業公開、レッスン公開
12月8日◎★	学科紹介、体験レッスン、学生によるコンサート
2020年 3月29日◎★	学科紹介、体験レッスン、学生によるコンサート

◎学校説明会 & 体験レッスン

開催日	開催地	会場
7月7日◎	富山県富山市	富山県民共生センター サンフォルテ
7月14日◎	香川県高松市★	サンポートホール高松 第1小ホール
10月27日◎	北海道函館市	(株)ヤマハミュージックリテイリング 函館店 函館中央センター

※★印の開催日、開催地では、附属高等学校の説明会も実施します。
※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

お問合せ

武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500 E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp



令和元年度 7月～10月 演奏会のお知らせ

ウィンドアンサンブル演奏会 指揮=ジェームズ・M.ランブレクト 曲目=J.ウィリアムズ:フォー・ザ・プレジデント・OWN M.ガンドルフィ:《栄華と瞑想》～ルネサンスの主題による、A.リード:アルメリアン・ダンス Part 2 2019年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲より 他	7月12日(金) 18:30 東京オペラシティ コンサートホール	¥1,500(全席指定)
	7月15日(月祝) 14:00 石川県こまつ芸術劇場うらら 大ホール	一般¥1,500 / 小中高校生¥1,000(全席自由)
管弦楽団演奏会 指揮=末廣 誠 ピアノ独奏=本学学生オーディション合格者 高橋七海(音楽学部演奏学科ヴィルトゥオーゾコース2年) [14日] 吉原麻実(大学院修士課程ヴィルトゥオーゾコース1年) [20日] 曲目=チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 Op.23、プロコフィエフ:交響曲 第5番 変ロ長調 Op.100	9月14日(土) 14:00 岡山シンフォニーホール 大ホール	一般¥1,500 / 学生¥1,000(全席自由)
	9月20日(金) 19:00 東京芸術劇場 コンサートホール	¥1,500(全席指定)
武蔵野音楽大学附属高等学校 第23回在校生と卒業生によるコンサート	※お問合せ=武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL.04-2932-3063	
	9月29日(日) 14:00 プラームスホール (江古田)	¥1,000(全席自由)
ペテル・ミハリツァ ヴァイオリン公開講座	10月4日(金) 18:30 モーツァルトホール (江古田)	¥1,000(全席自由)

※上記の他、学生による演奏会等、多数開催。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。
 ※やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
 ※チケットは本学ウェブサイトでも予約ができます。

●お問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

令和2年度(2020年度) 入学試験要項請求について

各入学試験要項(附属高等学校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科)は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方は、本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室へお電話にてご請求ください。(TEL.03-3992-1125)

なお、受験講習会受講者をご希望の方には、講習会期間中に配付します。
 本学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>



武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
大学受験講習会	8月1日～8月4日	7月1日(消印)～7月18日(消印)	江古田キャンパス
高校音楽科受験講習会	8月1日～8月3日	7月1日(消印)～7月18日(消印)	
社会人のための夏期研修講座*	7月28日～7月30日	7月1日(消印)～7月18日(消印)	
免許法認定講習 教員免許状更新講習とは異なります。	7月23日～8月3日	7月1日(消印)～7月13日(消印)	

◎大学受験講習会・高校音楽科受験講習会・社会人のための夏期研修講座については、本学ウェブサイトからのお申し込みも可能です。

※社会人のための夏期研修講座は、下記のⅠ～Ⅳより各1講座を選択します。

- Ⅰ ●中学生・高校生のためのピアノ指導法
 - 声楽指導法(アンチエイジングと発声法、ベルカント唱法・響きの良い声を求めて、最新根拠のあるわかりやすい発声法のヒント)
 - クラシック音楽を学んだ人のためのポピュラー音楽編曲法
- Ⅱ ●小学生のためのピアノ指導法 ●ソルフェージュ (演奏または教育現場におけるソルフェージュ学習の活用法)
 - 純音楽と映像音楽(純音楽と映像音楽の関連を、作曲技法的・歴史的に考察する)
- Ⅲ ●合唱指導 ●カール・オルフの音楽教育 ●個人レッスン(ピアノ、声楽のいずれかを選択)
- Ⅳ ●パイプオルガンの世界を探る(楽器の構造やオルガン特有の指使いについて) ●メンタルトレーニング入門
 - 楽器探訪(鍵盤楽器のアクションの変遷)

◎詳細は要項でご確認ください。◎講習会要項は、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室(TEL.03-3992-1125)へお電話にてご請求ください。本学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

編集後記

巻頭・生島淳さんの原稿に出てきた「リミッティング・ビリーフ」という言葉。初めて聞いた方も多いのではないでしょうか。簡単に言えば「制限、限界を作り出す自分の考え」。○○○○だから

私にはできない、無理。そんな思い込み、固定観念が自分の成長や成功を妨げてしまうとしたら。演奏技術を磨くと同時に、心の持ちようやメンタル面の大切さにも目を向けたいものです(編)。

オルゴール

W. フレレス作 スイス 19世紀 幅93cm

このオルゴールは、シリンダーを少しずつ横に移動させることで、1本のシリンダーで6曲の演奏が可能になっている。また、下部のスペースには3本の替えシリンダーが収納されている。

オルゴールの歴史は、時を告げる鐘を機械化する試みから始まった。中世のヨーロッパでは、鐘楼の鐘は人々に時間を知らせる重要な手段だった。当初は鐘突きが鳴らしていたが、14世紀にバレルに植えられたピンがハンマーを動かし、自動的に鐘を鳴らすものが考案された。その後ゼンマイ式機械時計が発明されると、シリンダーのピンが金属片をはじくことで、時報に音楽を奏でるものが登場する。この自動演奏装置が時計から独立することでオルゴールは誕生した。世界で最初のオルゴールは、1796年にスイスの時計職人A. ファーブルによって製作されたものとされている。

「オルゴール」は日本だけの名称で、英語では「ミュージカルボックス」などと呼ばれる。江戸時代末期にオランダから手回しオルガンが渡来した時に、人々はこのような自動演奏の楽器を「オルヘル」と呼んだ。これはオランダ語でオルガンを意味する。この



言葉が起源となり、わが国ではオルゴールという名称が定着した。世界大戦後、オルゴール生産の中心はスイスから日本に移り、一時はわが国の三協精機(現日本電産サンキョー)が世界の9割を占めるトップシェアを誇った。現在、オルゴールの需要は減少しているが、「癒し効果」などオルゴールの持つ新たな側面に注目が集まっている。

(武蔵野音楽大学楽器ミュージアム所蔵)

❖目次❖

- メンタルを強化して限界を突破する ❶
生島 淳
- 江古田新キャンパス探訪⑨ ❷
レッスン・練習室 共用スペースほか
- 卒業生インタビュー ❸
最高の音楽環境で充実の日々 眞塩 直
- 音楽の万華鏡 ❹
マクシミリアン1世の『凱行列』の宮廷音楽家 寺本まり子
- MUSASHINO NEWS ❺
- ❖グジェゴシュ・ニエムチュク ピアノ・リサイタル
- ❖平成から令和へ、改元の春の学園行事
- ❖武蔵野音楽大学 同窓会全国総会のお知らせ
- ❖MUSASHINO 掲示板
- ❖武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)
- ❖オープンキャンパス・学校説明会&体験レッスン
- ❖令和元年度 7月~10月 演奏会のお知らせ
- ❖令和2年度(2020年度) 入学試験要項請求について
- ❖武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>    

2019年7月1日発行 通巻第130号